

立命館小学校 2019年度 学校総括

教育目標		中期目標				
12年間の一貫教育を見すえた「培根達支」の精神と「命ある限り学び続ける学舎」を確立するために、子ども達にとって「人生に必要な根っこ」を鍛え、「命輝く小学校」を作る。		①小中高4-4-4制一貫教育推進のための校務運営・組織の一体化 ②小中高4-4-4制一貫教育における教育課題の実現 ③小中高一貫教育の独自課題の追求 ④SGH、SSH事業の充実・特色化と成果の発信及びMSコースの充実と他大学進学実績の向上 ⑤教育課題を推進するための環境整備				
区分	A. 課題 (上位目標)	B. 目標 (中位目標)	C. 達成目標 (当年度目標)	D. 自己評価	E. 具体的施策 (どのような方法で)	
教学課題	I 小中高4-4-4制一貫教育における教育課題の実現	1 12年一貫教育のメリットを生かす教育内容の系統化と将来像の検討	(1) 2020年度新指導要領実施に向けたカリキュラム検討 (2) 「国際教育」「海外研修」の指導カリキュラム確立 (3) セカンドステージの課題と問題点の整理 及び改善策の検討	◎ ○ ○	①教育改革に向けたワーキンググループを設置し、現状と課題を分析整理しつつ、今後の本校の教育のあり方を検討し方向性を定める。 ②小中高の連絡連携、G7G8生徒の実態把握 ③「国際室」と連携し海外研修の適切な到達目標を検討する	
		2 教科を中心とした教育内容の「系統化」の検討	(1) 各学年における学習内容・到達目標の再検討と検証 (2) (3)	○ ○	①「学習教務部」「研究研修部」を要として、各教科主任・部員と連携し、学習内容・達成目標を整理する	
		3 G5・G6児童の長岡京登校の質的発展	(1) 一貫教育を視野に入れた上での意義のある通学内容の検討 (2) (3)	◎ ○	①長岡京登校でしかできないことは何かを考えて取り組む ②長岡京登校の活動内容を十分吟味した上で、登校期間を検討し、児童にとっての学びのモチベーションが上がる教育活動にする	
	II 小中高一貫教育の独自課題の追求	1 小学校の「強み」と「弱み」の検証	(1) 小学校6年間で目指す学力到達目標の明確化 (2) 文科省認定「情報科」(ホテックス・ICT)のカリキュラム確立 (3) 真の国際人の育成に向けた更なる英語力育成を進める	○ ○ ○	①小学校6年間の学力の到達状況のデータをもとにした検証 ②中学校・高等学校進学児童の学力の到達状況のデータからの検証 ③情報科部・ICT教育推進部によるカリキュラム確立に取り組む	
		2 教育の4つの柱の現状と課題の明確化	(1) 「確かな学力の形成」の現状と課題把握 (2) 「真の国際人」「豊かな感性」の学びのシステムの課題把握 (3) 「高い倫理観と自立心の育成」の実践的探求	○ ○ ○	①4つの柱における児童の実態をデータも含め日常的に把握する ②定期的に学習習得データを取り、指導の検証に取り組む ③外部検定等も活用し、到達度を検証していく ④「五つの誓い」における目指す児童像の教師間児童間の理解徹底	
	III SGH、SSH事業の充実・特色化と成果の発信、及び、MSコースの充実と他大学進学実績の向上	1 グローバルリーダー育成のための国際交流・国際教育のあり方についての検討	(1) 12年一貫教育を通じた英語力到達目標の確立 (2) 本校の海外語学研修事業の課題把握と改善推進 (3)	○ ○ ○	①英語科と連携して、過去の到達データをもとにした検証を行う ②国際室及び国際専門担当を設置し、国際交流・学校交流を進展させる ③留学に関わる事前学習・事後学習、及び報告会を充実させる	
		2 学びのモチベーション(学びの構え)を作り高めるための指導の強化	(1) 立命館に通い学ぶ事の誇りと自信を抱き続ける児童の育成 (2) 知的好奇心を持ってあらゆる事から学び続ける児童の育成 (3)	○ ○ ○	①教員が児童の心のコップを上向きにする意識を持ち日常指導する ②自ら学びを追究していく「自学習」への取り組みを意図的に行う	
		3 学力向上に向けた指導の方策検討	(1) 国語力の伸長化を目指す (2) 算数学力における下位層の底上げと上位層の引き上げる (3)	○ ○ ○	①5、6年生の国語・算数の授業において演習カリキュラムを導入する	
	管理運営課題	I 小中高4-4-4制一貫教育推進のための校務運営・組織の一体化	1 学校組織一体化に伴う2年目の組織運営の実施及び課題の確認	(1) 校舎分離型一貫校としての円滑な組織運営の在り方の探求 (2) (3)	○ ○	①小中高・同じ分掌の組織運用の善し悪しを日常組織活動を通して点検する
			2	(1) (2) (3)	 ○	
			3	(1) (2) (3)	 ○	
II 教育課題を推進するための環境整備		1 情報科(ホテックス・ICT)設置に伴う各教室等のICT教育環境整備	(1) 各教室に授業活用のための新規常設ICT機器の設置 (2) (3)	◎ ○	①電子教卓を1~4年の全教室にも配備する ②数年先を見通し、授業効率上がる、最新最先端の機器の選定し設置する	
		2 特別支援体制の構築	(1) 児童の個別相談や個別支援に対応した居場所を作る (2) (3)	○ ○	①児童サポートルームの新設を計画する	
		3	(1) (2) (3)	 ○		

達成状況	目標については、おおむね達成することができた。とりわけ、以下の点において、大きく前進できた。 ・2020年度からの新カリキュラムを策定し、①基礎学力の定着・向上のための改善、②「探究型学習」の導入、③評価方法の3観点への変更、④土曜日原則休業などを具体的な施策とした。 ・長岡京登校にかかわって、中高生や中高教員との交流をより充実させるため、プログラム内容を見直した。 ・教育実践におけるICT活用を進めるため、2020年度より3年生から全員PCを所持することとした(これまでは5年生から)。また、1・2年生ではiPadを活用することとした。
改善策	上記の通り、2020年度からの新カリキュラムに改善策を盛り込んだ。さらに、R2030チャレンジデザインの策定に向け、新型コロナによってもたらされる社会の情勢変化をよく吟味しながら、長期的なビジョンにかかわる議論を学校全体で行っていく。
支援希望	児童募集にかかわっては、京都市内の私立小学校全体として厳しい状況が続いている。立命館小学校の優位性を発揮し、その価値を社会に広く理解していただけるよう、広報面における協力を引き続きお願いしたい。